茨　城　大　学　学　報

第296号
平成23年4月～平成23年5月

人文学部 A 棟前の様子

INDEX

◆　北茨城市にて「茨城大学災害ボランティア」活動
◆　定例記者会見で、東日本大震災に関する本学の対応について説明
◆　磯田高等教育局長が本学の東日本大震災の被害状況を調査
◆　水戸市内の被災した学校へのボランティア派遣
◆　池田学長による一般教養講義
◆　建物の壁面緑化を実施
◆　名誉教授称号授与式・懇談会を開催

茨城大学総務部総務課広報係
TEL 029-228-8008
FAX 029-228-8019

◆　北茨城市にて「茨城大学災害ボランティア」活動

本学では、４月４日から８日までの５日間、地域連携活動の一環として、東日本大震災の被害が県内でもっとも大きい市の１つである北茨城市に学生２１名を派遣し、現地の要請に応じたボランティア活動を行いました。

大学のホームページにて、志のある学生を募集したところ、２日間で８４名もの応募者があり、その中から２１名を選び、北茨城市へ派遣しました。

現地では、被災者宅や壊れた塀の後片付け、支援物資の整理運搬、被災住民を対象とした聞き取り調査、支援衣料品類の整理手伝い等を、２グループに分かれて行いました。

また、被災して学習机を失った小中学生のために、杉の間伐材を使って学習机「でき杉君」と椅子、本棚を１人１台製作し、机の裏には被災者に対する激励の言葉などを書きました。

ボランティア活動は、現地の被災住民の方から温かく迎えられ、参加した学生にとって有意義な経験となりました。

㊤机に激励の言葉を書き込む学生　㊧食料品等の整理　㊨壊れた塀の片付け作業

◆　定例記者会見で、東日本大震災に関する本学の対応について発表

震災後の経緯について説明する池田学長

４月１８日、事務局棟第３会議室において行われた定例記者会見で、「東日本大震災」に関する本学の対応等について発表しました。

冒頭、池田幸雄学長から、震災後の経緯について説明がありました。その中で、池田学長は、「大学憲章に従って、被災地域の住民のために、本学が全力で支援活動を推進すべきであり、地方自治体や県・国、地域住民等と互いに協調し、『活気ある明るい日本』の実現に全面的に協力する」と述べました。

続いて、山本惠一理事から「本学施設の被害状況について」、田代尚弘理事・副学長から「本学学生の被害状況について」及び「被災学生、児童への支援について」、三輪五十二特命教授から、「学生ボランティア活動状況について」、三村信男学長特別補佐から、「本学教員による被災地域での調査活動について」の説明がありました。

出席した記者からは五浦美術文化研究所の「六角堂」についての質問があり、池田学長は、「六角堂の再建は可能であるが、重要な国登録有形文化財であるという観点から、できれば流された建物を海から引き上げて復元したい。そのためには、流された建物を海から引き上げることが可能か調査したい」と答えました。

記者会見の様子

◆　磯田高等教育局長が本学の東日本大震災の被災状況を調査

文部科学省の磯田文雄高等教育局長は４月２０日、本学を訪れ東日本大震災による大学の被災状況を調査しました。（国立大学法人支援課寺門成真企画官も同行）

磯田局長は教育学部附属小学校、水戸キャンパスの理学部、五浦美術文化研究所、日立キャンパスの工学部を調査しました。附属小学校では尾﨑久記教育学部長、田中健次校長、飯村久美子副校長から建物の被災状況、児童の避難状況などの説明を受け、児童のケアに対する要望などを聴取しました。水戸キャンパスでは理学部や体育館の調査を行い、池田幸雄学長、山本惠一事務局長等から震災による被災状況の報告を受け、今後の対応について意見を交換しました。五浦美術文化研究所では国登録有形文化財の「六角堂」が津波により流失した現場を視察、小泉晋弥副所長の説明や池田学長からの要望にも熱心に耳を傾けていました。日立キャンパスでは友田陽工学部長より報告を受け、研究機器や実験器具の被害状況について意見の交換を行いました。

被災状況の説明を受ける磯田局長㊥（池田学長㊧、小沢施設課長㊨）

被災状況の報告を受ける磯田局長㊥（池田学長㊧、寺門企画官㊨）

津波の被害を受け台座だけになった六角堂

◆　水戸市内の被災した学校へのボランティア派遣

教育学部は水戸市教育委員会と教育連携協定を結んで６年目となり、教育ボランティアは年間約３００名を派遣しています。例年は水戸市教育委員会が学校の要望をまとめ、教育学部附属教育実践総合センターへ送ることになっていますが、今年度は震災被害へ対応するために年度当初から、随時、要望を送ってもらうことにしました。

また、例年、茨城県内の学校・幼稚園・保育園・公民館・社会福祉施設からのボランティア派遣の要望に応じていますがが、主に教育実習でお世話になっている学校を中心に、被災状況を把握し､ボランティア派遣の有無を確認していました｡これらの要請をもとに、学生を募ったところ、多数の学生から申し出があり、順次活動を行っています。

被災により保育室が使用できず、６０名の園児を一室で保育しなければならない水戸市立内原幼稚園では、学生が保育補助のボランティアを行い、活動に参加した学生は「実家が被災し、震災直後は大変だった。自分が教育現場で何かできることがあればと思っていたので、役立てて良かった」と園児たちに笑顔で接していました。

ボランティアについての支援を受けたい内容は様々で、児童たちの相談相手以外にも、震災の片付けが間に合わない学校からは､教育環境の整備などの依頼もあり､学生たちは、授業の合間に積極的に活動に参加しています。

水戸市立笠原小学校では、新学期も始まり、なかなか進まない教室の復旧作業に手を貸してもらい非常に助かっているとのことでした。

センターでは、今後も引き続き学校からの支援要請にできるだけ対応したいとしています。

幼稚園での保育補助の活動をする学生ボランティア

小学校での復旧作業に取り組む学生ボランティア

◆　池田学長による一般教養講義

昨年より新１年次生を主対象とした一般教養科目の一環として、本学役員等による「茨城大学の学問を楽しもう」を開講しています。

平成２３年度第４回の講義は５月２４日、水戸キャンパスで池田幸雄学長が「隕石と惑星」という内容で「火星生命の歴史」を主テーマに行われました。

東日本大震災の影響で入学式を行えなかったことから、この日が新１年次生との「初顔合わせ」となったこの講義では、冒頭に震災による大学の被害状況、学生の安否確認の結果、放射線への対応について説明し、日本人の美徳である【勤勉】・【我慢】・【思いやりの心】をもって、『明るく元気のある日本社会を作ろう』と提案しました。

続いて、池田学長の専門分野である「隕石」の話を中心に一人一人の学生に問いかけるように、「火星生命の歴史」について分かりやすく熱心に講義しました。受講した約１８０名の学生は、池田学長の言葉にメモを取りながら真剣に耳を傾けていました。

本講義は、次回以降も副学長や学長特別補佐、各学部長がそれぞれの研究テーマを基に講義する予定です。

講義を行う池田学長

◆　建物の壁面緑化を実施

苗植え作業に多くの職員が集合

３月にグリーン化推進計画を決定した本学は、計画の主な柱である低炭素活動の具体的取組として、建物の壁面緑化を試行的に行うこととしました。

５月２６日、水戸キャンパスの事務局、各学部事務部の職員が集合し、フラワーポット１００鉢に培養土、肥料を入れて苗植えを行いました。

苗はゴーヤ、瓢箪、へちま、アサガオの４種類で、今後各建物に枠、ネットを取り付け、外壁面グリーンウォールを完成させる予定です。

今年は、電気事業法に基づく電気の使用制限発動で、空調の運転制限などより一層の節電に取り組む必要があるため、自然を利用した省エネ効果に大きな期待が寄せられています。

作業を行う山本惠一理事

◆　名誉教授称号授与式・懇談会を開催

名誉教授称号授与式が５月２７日に事務局で行われ、関係者出席のもと池田幸雄学長から、今回新たに名誉教授となられた８名の方に称号記が授与されました。

名誉教授の称号は、多年本学に勤務され、教育上又は学術上特に功績のあった教授に授与されるものです。

称号授与式に引き続き、昼食を取りながら名誉教授と関係者との懇談会が開催され、役員・副学長・学部長の祝辞に続き、新名誉教授から、思い出話、抱負、これからの茨城大学に期待すること等についてお話があり､終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。

新名誉教授　　８名（敬称略）

教育学部	山根　爽一
理学部	大嶋　秀明、三輪　五十二、柳田　昭平
工学部	鈴木　秀人、田附　雄一、横山　功一
農学部	中村　豊

称号授与式後の記念写真